

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-日乃出町		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年10月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用される方々が、安心して安全な環境の中、実りある充実した毎日をお過ごし頂ける様、支援させて頂いております。季節毎のイベントは勿論の事、日常の娯楽、工作、体操など毎日が違う楽しみの中でお過ごし頂いております。又、いつまでも張り合いのある毎日となる様に、お一人お一人に役割を持って頂き、ご自身の自尊心含め生きがいを創造して頂いております。職員教育では、プライアン看護師の原則の元、今行っている支援が本当にご利用されている方々の為なのか、もっと適したケアはないのか、お一人お一人の身体状況に合わせたケアをカンファレンスを通じ見直しております。又、毎月プチ勉強会と称し、テーマを決めスキルアップを図っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人内での異動で着任の新管理者は、2、3ヶ月毎に職員と個人面談をおこない、メンタルケア並びに働きやすさ、引いては定着率向上に向かっています。面談では「ケアのやり方がわからない、これでいいの」といった現場の疑問点に応えるとともに処遇について想いや意見を傾聴して解決にあたり、「一緒に考えよう」との姿勢を示しています。またチーム制を敷き、例えば排泄チームが中心となり「脱・おむつ」が推進され、入浴チームはCDから利用者に好みの曲を選んでもらい浴室に流してリラククス感をアップ、快適環境創作チームは5Sに留まらない空間演出に力を入れており、玄関から続く壁にはお月見のオブジェが連なっていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の運営理念「生き生き生きる」は、ご利用されている方が、いつまでもその方らしくお元気でお過ごし頂く意味が込められており、働く者全てがその理念を理解し、ご利用されて皆様が希望されるケアの実践に努めている。	利用者が望むこと、職員がやってみたいことを季節に合わせておこなうことが、理念実現に実っています。いちご狩りに替えていちごパーティー&ビンゴ大会、バラ園見学はプランターをつかった室内ガーデニングというようにコロナ禍にも柔軟に対応しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年、年2回行われる地域の防災訓練に参加していたが、今年はコロナの影響で訓練が中止になった。	中学生の福祉体験、高校生の実習等ことごとく中止となっていて、町内会長、民生委員へも事業所からはアプローチできていません。ただ民生委員は気にかけて時々電話を入れてくださり、回覧板も廻ってくるため地域の情報共有は叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折、施設前を散歩される方から、在宅介護の相談を受ける事があり、認知症の対応方法等、雑談を交えながらお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政・包括はじめ、町内会長さん、民生委員さんに参加頂いている。地域の情報や行政・包括からの運営に関するアドバイスを頂く機会となっている。	奇数月の隔月開催をつつがなく実施してきましたが、5月、7月、9月は書面開催としています。職員間で2ヶ月の活動内容を話し合っって書面化したものをメンバーに送付し、文面上で意見を求めています。ただ、残念ながらメンバーから意見は集まっていません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や定期訪問を通じて信頼関係を高め、現在行っているサービスを客観視して頂く機会を設けている。	運営推進会議には市役所から半数強の出席が得られ、地域包括支援センターは毎回出向いただき、助言を得ています。身体拘束に係る疑義やコロナ禍における運営推進会議の運営方法など、不明点があれば問い合わせています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束廃止に向けての施設内勉強会を開催している。又、運営推進会議時に合わせ身体拘束廃止委員会を開催し、参加者にケア方法についてのアドバイスを頂いている。	職員も不安に思うことは多々あるため、身体拘束廃止委員会の協議の場は自分たちの対応を客観視できる有意義な場として浸透しています。委員会は運営推進会議の中で併催されており、制度的には3ヶ月に1度でよいところ、2ヶ月に1回の開催を継続しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に紐づく形で、虐待防止についても随時共有勉強している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政並びに包括との連携を密にし、権利擁護事業 ・成年後見制度の情報を得るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をかけ説明し、全てにおいてご納得頂いた上で、契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、ご意見箱を設けるなどし、ご家族様のご意見ご意向を抽出し施設運営に反映させる取り組みをしている。	家族が可能な日に合わせて1年に1度はサービス担当者会議において膝づめで話し合い、「笑顔通信」と名付けた個人毎の便りを毎月発行しています。現状面会を自粛してもらうことが徹底されていることで膨らんだ家族の不満打開が課題となっています。	管理者の夜勤配置は運営上は困る数ではないものの、家族にとって管理者が日中不在なことは心細く、コロナ禍明けには解決していることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1on1の面談をはじめ、日頃より、職員とのコミュニケーションは密にとっている。職員からの要望は可能な限り活かせるよう配慮している。	2、3ヶ月と頻回に1対1の個人面談をおこない、職員のケアに留意しています。主には「ケアの知識不足」「休暇申請などの待遇」の2点に絞って想いや意見を傾聴して、「一緒に考えよう」との姿勢を示すとともに、改善向上にあたっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己研鑽を促し、勤務態度あるいは、評価によりキャリアアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人研修には法人全体で力を入れており、フォローアップ研修を通じ、レベルの向上を図っている。又、個々のスキルに合った研修に参加させる事で育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナの影響で中止となったが、例年富士市内のグループホーム連絡会に参加し研修や交換実習などを通じ、他施設の良いところを見習い、自施設のサービス向上に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後目安として1か月は細心の注意を払いご本人のニーズを抽出し、これまでの生活リズムを把握した上でケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの段階から、ご家族のニーズも抽出するよう努めている。入居後はご家族も様々な不安を抱えられている事から日常の様子をお伝えする様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15.16と相成り、ニーズを抽出し、得られたニーズをケアに反映する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で、その方の出来る事は可能な限り一緒に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況をお伝えし、ご家族の協力を仰ぎながら支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナの影響で面会自粛となっているが、通常であれば、いつでも面会が出来るよう体制を整えている。	コロナ禍前には3日に1度訪れていた家族が3組あるほか、頻回に立ち寄っていた友人もいましたが、未だ面会は自粛してもらっています。幸いにも利用者には大きな動揺はなく、在宅の頃から馴染んだ新聞を読み、仏壇に手を合わせる日々を送っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のふれあいや会話の時間を大切にしながら、時折職員も間に入り人間関係が円滑に行くよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された後も、温かいお言葉を掛けて下さるご家族だったり、近況をお知らせ下さるご家族もいらっしゃる事から、永くお付き合いをして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期モニタリングやアセスメント時に、ご本人のご意向を伺い、カンファレンスを通じ、ご意向が反映されたケアの実践に努めている。	骨折入院から戻った本人は「痛いからほっといてくれ」と言い、家族は「また転んだら困るので歩かせないでくれ」と言い、双方の意を汲みたいものの事業所では、本人のADL維持向上も達成したいこととして、三者の合意接点を探るといったケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメント及びご本人・ご家族から得られる情報を基に、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況等の変化があった場合、カンファレンスを実施し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス或いは定例会等で、職員間の意見交換を実施した上でモニタリングを行う。必要に応じてご家族からご要望をお聞きし、介護計画を作成している。	職員の現場の目、介護支援専門員の専門的な視点が、双方の意見交換を通じてよりよく融合して適切な支援方法を詳らかにしています。また、それらをベースにモニタリングは計画作成担当者や介護支援専門員で取り組み、「チームでつくる」につなげています。	訪問マッサージなどの外部資源を活用している点は評価されますが、「悲しい気持ちで過ごしている」利用者の支援担当には家族を加えるなど、今後は家族が担当者になる項目があるとなお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、心身状況の様子は経過記録に記載し、情報共有に努め、介護計画の見直しに資している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは不変ではない為、その都度、現在行っているサービスに付帯する形で対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人がこれまで活用されていた社会資源の把握に努め、必要に応じその資源の再活用に協力していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、協力医との連携を密にし包括的に利用者の体調管理を行っている。ご要望があれば、総合病院等の受診も行い逐一ご家族に報告を行っている。	看護師を伴い協力医が月2回訪問診療に訪れており、全員が従来のかかりつけ医から変更しています。事前に一人ひとりの情報を医師にFAX送信するとともに、管理者または介護支援専門員が立ち会うようにしています。変化は、経過記録の中にある「受診対応」に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来ていただいている。日常の経過や様子については、来設時に情報共有し、相談したり指示を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、施設での状況を伝え早く施設にお戻り頂ける様協力している。入院中は面会を重ね、不安を払拭できる様配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人はもちろんの事、ご家族のご意向を伺い、ケアに反映させている。又、主治医・訪問看護師と職員が一つのチームとなり支援してる。	急変した場合の初動体制、連絡網などの書面が整備されてはいるものの、職員の中には「心配…」との声も聞かれ、管理者がフォローしています。偲びのカンファレンスは、看取りのやり方や反省についてはさておき、当事者が「幸せに旅立てたか」に着眼しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、急変時、事故発生時に備えている。応急手当等、習得していない職員も居る事から、今後研修を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に防災訓練を行っている。又、地域の防災訓練にも例年参加していたが、今年はコロナの影響で中止となった。	毎年地域の防災訓練に参加しており、天気がよければ散歩ついでに歩ける利用者とお出かけていましたが、本年は中止となっています。先月「非常招集連絡網」で訓練を実施、来月は火災、年度末には地震と風水害でおこなう予定です。	次の2点を期待します。①非常食の「何日分」が不明瞭なため、一覧表にして把握する ②171(災害時伝言ダイヤル)を通じて、家族と訓練をおこなう

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った声掛けをしたり、時に時間を掛け寄り添うよう対応している。	「何十年と積み重ねてきたその人の人生の延長線上に我々がいる」「その人の生活を壊してはいけない」と管理者から職員に繰り返し伝えており、「寝たいときに寝る」「同性介助」が実践され、「食事だけはせめて一緒に、あとは自由に」が慣行されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンで、ご自身の意思決定がスムーズに出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けや、接する中で、ニーズを読み取り、可能な限りご自身のご希望に添える様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整容に努め、身だしなみを整えている。又、訪問美容師にお願いし、ご希望される方は、カラーやパーマを行い、ご希望に添える様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事であったり、イベントメニューを設けるなど、楽しみの一つである食事を大切にしている。味付けなど、一緒に行う事もあり、一緒に作り上げている感じがある。	法人から届く献立表には予め空欄があり、そこはお楽しみ献立として、各ユニット2名で編成された食事チームが夏ならソーメン、秋になると焼き芋と、季節を感じるメニューを提供しています。また、毎月のおなぎの日は、利用者から「待ってました！」と声がかかります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事形態で提供し、摂取量等は生活日誌に記録している。 又、食事チームが主導となってミールカンファレンスを開催し利用者の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で出来る方には声掛けし、介助が必要な方には口腔ケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チームが主導となって、利用者お一人お一人の排泄パターンを把握し時間誘導を行い、脱オムツに向け取り組んでいる。	排泄チームが中心となり「脱・おむつ」を推進、夜間はオムツでも「日中はリハビリパンツでトイレへ」が励行されていますが、6名が立位を保てず2人介助が必要です。また家族の経済的負担にも配慮しており、尿量や時間帯でパットを替えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に緩下剤に頼るのではなく、水分摂取の 是正であったり食事メニューを見直し、自然排泄が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を一つの日安としているが、ご要望があれば回数制限はなく、いつでも入浴出来るよう配慮している。個々にあった湯温で提供し、入浴剤を使用しリラックスして楽しんで頂く環境作り	入浴チームの計らいで入浴タイムには音楽を流しています。浴剤は3種類から選んでもらい、好みの曲で高揚感のある入浴に突入り、おしゃべりや歌でリフレッシュにもなっています。また見えない箇所の痣や傷、白癬で爪がはがれそうなどの発見にも余念がありません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等考慮し、日中臥床時間を設けている。レクリエーション等は、無理強いをせず、ご本人のご意向を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬情報は専用ファイルにまとめいつでも確認が出来るようにしている。変更があった際は、情報共有し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の状態に合わせ、お手伝いをお願いしている。日常の中で一つでも役割を持って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で、外に出る事が制限されているが、例年、天気の良い日は散歩や外出出来る体制を整えている。	以前は三津シーパラダイス、富士サファリパークなどへと精力的に出かけていましたが、現在は玄関先の外気浴と目前の小さな川周辺でのコスモス鑑賞程度に留まっています。日中の職員配置は満たされているため、コロナ明けを利用者だけでなく職員も心待ちにしています。	「降りないミニドライブ」やテイクアウトで外食気分など、外出できない状況への何らかの対策を期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の観点も含め金銭を所持されている方は居ないが、今後ご自身で管理が可能な方が入居された際は支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じ、使用して頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光強い際はカーテンを閉めたり、室温・湿度には十分注意し必要に応じエアコンを使用している。特に今年はコロナ対策として、館内消毒を徹底している。	快適環境創作チームを発足、掃除道具の選定から置き場所、頻度等の遵守事項を決めて徹底させ、コロナ禍における換気と消毒に生きています。また5Sに留まらない空間演出にも力を入れおり、お月見にちなんで「月とうぎぎ」のオブジェや敬老会の写真が品よく掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、皆さんと談話されたり、テレビを観たりと思い思いにお過ごし頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、家具家財道具をお持ち込み頂き自宅に居る感覚を再現している。動線等には十分配慮し、安心して安全な空間を提供している。	お気に入りの籐椅子や、椅子に腰かけるタイプのテーブル式こたつ、仏壇など馴染みのものが持ち込まれています。自宅の間取りに近いよう家具の位置を検討するほか、左麻痺には車いすを右につけられるようにベッドを移動させるなど、暮らしやすさに留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を確保し、出来るだけ安全に歩行できるように配慮し、見守りを実施している。各居室についても、それぞれの状態に合わせ適宜変更等実施している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-日乃出町		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2272300969-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年10月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用される方々が、安心して安全な環境の中、実りある充実した毎日をお過ごし頂ける様、支援させて頂いております。季節毎のイベントは勿論の事、日常の娯楽、工作、体操など毎日が違う楽しみの中でお過ごし頂いております。又、いつまでも張り合いのある毎日となる様に、お一人お一人に役割を持って頂き、ご自身の自尊心含め生きがいを創造して頂いております。職員教育では、プライアン看護師の原則の元、今行っている支援が本当にご利用されている方々の為なのか、もっと適したケアはないのか、お一人お一人の身体状況に合わせたケアをカンファレンスを通じ見直しております。又、毎月プチ勉強会と称し、テーマを決めスキルアップを図っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人内での異動で着任の新管理者は、2、3ヶ月毎に職員と個人面談をおこない、メンタルケア並びに働きやすさ、引いては定着率向上に向かっています。面談では「ケアのやり方がわからない、これでいいの」といった現場の疑問点に応えるとともに処遇について想いや意見を傾聴して解決にあたり、「一緒に考えよう」との姿勢を示しています。またチーム制を敷き、例えば排泄チームが中心となり「脱・おむつ」が推進され、入浴チームはCDから利用者に好みの曲を選んでもらい浴室に流してリラククス感をアップ、快適環境創作チームは5Sに留まらない空間演出に力を入れており、玄関から続く壁にはお月見のオブジェが連なっていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の運営理念「生き生きと生きる」は、ご利用されている方が、いつまでもその方らしくお元気で お過ごし頂く意味が込められており、働く者全てが その理念を理解し、ご利用されてる皆様が希		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、年2回行われる地域の防災訓練に参加していたが、今年はコロナの影響で訓練が中止になった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折、施設前を散歩される方から、在宅介護の相談を受ける事があり、認知症の対応方法等、雑談を交えながらお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政・包括はじめ、町内会長さん、民生委員さんに参加頂いている。 地域の情報や行政・包括からの運営に関するアドバイスを頂く機会となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や定期訪問を通じて信頼関係を高め、現在行っているサービスを客観視して頂く機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束廃止に向けての施設内勉強会を開催している。又、運営推進会議時に合わせ身体拘束廃止委員会を開催し、参加者にケア方法についてのアドバイスを頂いている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に紐づく形で、虐待防止についても随時共有勉強している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政並びに包括との連携を密にし、権利擁護事業 ・成年後見制度の情報を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をかけ説明し、全てにおいてご納得頂いた上で、契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、ご意見箱を設けるなどし、ご家族様のご意見ご意向を抽出し施設運営に反映させる取り組みをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1on1の面談をはじめ、日頃より、職員とのコミュニケーションは密にとっている。 職員からの要望は可能な限り活かせるよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己研鑽を促し、勤務態度あるいは、評価によりキャリアアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人研修には法人全体で力を入れており、フォローアップ研修を通じ、レベルの向上を図っている。又、個々のスキルに合った研修に参加させる事で育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナの影響で中止となったが、例年富士市内のグループホーム連絡会に参加し研修や交換実習などを通じ、他施設の良いところを見習い、自施設のサービス向上に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後目安として1か月は細心の注意を払いご本人のニーズを抽出し、これまでの生活リズムを把握した上でケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの段階から、ご家族のニーズも抽出するよう努めている。入居後はご家族も様々な不安を抱えられている事から日常の様子をお伝えする様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15.16と相成り、ニーズを抽出し、得られたニーズをケアに反映する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で、その方の出来る事は可能な限り一緒に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況をお伝えし、ご家族の協力を仰ぎながら支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナの影響で面会自粛となっているが、通常であれば、いつでも面会が出来るよう体制を整えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のふれあいや会話の時間を大切にしながら、時折職員も間に入り人間関係が円滑に行くよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された後も、温かいお言葉を掛けて下さるご家族だったり、近況をお知らせ下さるご家族もいらっしゃる事から、永くお付き合いをして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期モニタリングやアセスメント時に、ご本人のご意向を伺い、カンファレンスを通じ、ご意向が反映されたケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメント及びご本人・ご家族から得られる情報を基に、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況等の変化があった場合、カンファレンスを実施し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス或いは定例会等で、職員間の意見交換を実施した上でモニタリングを行う。必要に応じてご家族からご要望をお聞きし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、心身状況の様子は経過記録に記載し、情報共有に努め、介護計画の見直しに資している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは不変ではない為、その都度、現在行っているサービスに付帯する形で対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人がこれまで活用されていた社会資源の把握に努め、必要に応じその資源の再活用に協力していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、協力医との連携を密にし包括的に利用者の体調管理を行っている。ご要望があれば、総合病院等の受診も行い逐一ご家族に報告を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来ていただいている。日常の経過や様子については、来設時に情報共有し、相談したり指示を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、施設での状況を伝え早く施設にお戻り頂ける様協力している。入院中は面会を重ね、不安を払拭できる様配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人はもちろんの事、ご家族のご意向を伺い、ケアに反映させている。又、主治医・訪問看護師と職員が一つのチームとなり支援してる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、急変時、事故発生時に備えている。応急手当等、習得していない職員も居る事から、今後研修を行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に防災訓練を行っている。又、地域の防災訓練にも例年参加していたが、今年はコロナの影響で中止となった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った声掛けをしたり、時に時間を掛け寄り添うよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンで、ご自身の意思決定がスムーズに出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けや、接する中で、ニーズを読み取り、可能な限りご自身のご希望に添える様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整容に努め、身だしなみを整えている。又、訪問美容師にお願いし、ご希望される方は、カラーやパーマを行い、ご希望に添える様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事であったり、イベントメニューを設けるなど、楽しみの一つである食事を大切にしている。味付けなど、一緒に行う事もあり、一緒に作り上げている感じがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事形態で提供し、摂取量等は生活日誌に記録している。 又、食事チームが主導となってミールカンファレンスを開催し利用者の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で出来る方には声掛けし、介助が必要な方には口腔ケアを実施している。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チームが主導となって、利用者お一人お一人の排泄パターンを把握し時間誘導を行い、脱オムツに向け取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に緩下剤に頼るのではなく、水分摂取の是正であったり食事メニューを見直し、自然排泄が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を一つの日安としているが、ご要望があれば回数制限はなく、いつでも入浴出来るよう配慮している。個々にあった湯音で提供し、入浴剤を使用しリラックスして楽しんで頂く環境作り		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等考慮し、日中臥床時間を設けている。レクリエーション等は、無理強いをせず、ご本人のご意向を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬情報は専用ファイルにまとめいつでも確認が出来るようにしている。変更があった際は、情報共有し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の状態に合わせ、お手伝いをお願いしている。日常の中で一つでも役割を持って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で、外に出る事が制限されているが、例年、天気の良い日は散歩や外出出来る体制を整えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の観点も含め金銭を所持されている方は居ませんが、今後ご自身で管理が可能な方が入居された際は支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じ、使用して頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光強い際はカーテンを閉めたり、室温・湿度には十分注意し必要に応じエアコンを使用している。特に今年はコロナ対策として、館内消毒を徹底している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、皆さんと談話されたり、テレビを観たりと思い思いにお過ごし頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、家具家財道具をお持ち込み頂き自宅に居る感覚を再現している。動線等には十分配慮し、安心して安全な空間を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を確保し、出来るだけ安全に歩行できるように配慮し、見守りを実施している。各居室についても、それぞれの状態に合わせて適宜変更等実施している。		